



新潟大学六花寮（男子寮）
〒951-8134 新潟市関屋2番地18
（新潟大学五十嵐キャンパスから約8km、旭町キャンパスから約3km）

六花会のお二人にご協力をいただきました。ありがとうございました。（編集部）

ふじのしんさく
藤野臻策さん（元新潟県立がんセンター副院長）

旧制新潟高校に昭和14年入学。

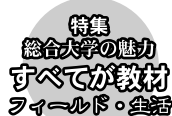
みかたしげとし
味方重敏さん（元BSN新潟放送テレビ局長）

旧制新潟高校に昭和23年入学。旧制最後の入学生で、
新学制のもと新潟大学の最初の六花寮生でもある。

昭和14（1939）年 第二次世界大戦勃発

昭和23（1948）年 東京裁判 / 「暮らしの手帖」創刊

特集1 六花寮座談会



六花寮は、 もう一つの学びの場

皆さん、六花寮といえば、何を連想されますか？キャンパスから遠い不便な学生寮でしょうか。寮歌を歌う独特な集団でしょうか。えー、名前からして歴史があると思いませんか。旧制新潟高校ができた大正からの伝統（？）が確かにここにはまだ生きているのでした。旧制新潟高校時代の六花寮生である藤野さん、味方さんという大先輩にもご参加いただき、現学生とともに六花寮の今昔についてゆったりと話をしていきますと、意外にももうひとつの学びの場が見えてきました。共同生活を通して、学生がルールを自生し、議論し、仲間との関係の中で大人の基礎をつくっていく、そんな場が……。

新潟大学の開学式が開かれたのは、昭和二十四年七月十八日（正式な開学は、六月一日）。新潟医科大、旧制新潟高校、長岡工業専門学校などを統合して発足しました。

現在の六花寮は、旧制新潟高校時代の寮名を受け継いでいます。場所は、新潟市西大畑から関屋に移っています。また、旧制新潟高校の卒業生たちは、六花会という同窓会を組織していて、月1回の例会と、年に1回の全国大会を開催しています。これは、新潟大学六花寮とは関係なく独自に動いている同窓会です。接点がありそうで、なさそう。

しかし、座談会の中で、新歓行事、ストーム（ ）寮祭などの話が出てくると、やはり、つながりがあるんだなあと感じさせてくれました。とどめは半世紀以上も年が違うのに、一緒に寮歌を歌えるという事実でした。歌は、素晴らしいなあ。歌が二つの六花をつなげてくれた日でありました。

ストーム【storm】

（嵐の意）学校の寄宿舎などで、夜、大勢が歌を高唱したりして騒々しく練り歩くこと。[広辞苑 第四版]

六花寮の歴史は、 歌でつながっていた



新潟には新しい自由があった あんまり自由なのでびっくりした

藤野臻策さんは、当時をふりかえり「新潟は自由だったねえ。あんまり自由なのでびっくりした。私は、上越、高田藩のところから新潟に来たでしょ。高田では映画見るのも禁止



藤野臻策さん

寮歌と一緒に歌う新・旧六花寮生
（六花寮食堂）



六花会の出版物(これが、立派で多い)を見ながら
当時からふりかえる藤野さんと味方さん。



清和寮を写真で紹介している「写真集・あくがれてこし丘
の上や」(新潟高等学校六花会)。他にも、藤野さん、味方
さんたちの青春のメモリアルが記録されている写真集。



教育人間科学部2年神田大嗣さん

されていたけれども、新潟に来たら、酒を飲み
に古町、堀の屋台へ、中には半玉などの女となじみを...
...、稀ですけどね。」とおっしゃいます。

ただ、表面的な自由だけではないらしい。

「八田三喜校長(旧制新潟高校初代)というお方は、
24歳で校長になった方で、1.自由 1.進取 1.信愛



味方重敏さん

という基本を説いた方
でねえ。学校も自由だ
った。」

味方さんも自由につ
いて続ける。「いやー
ね、授業中に寝ていた
って、自由に寝てくだ
さいってぐらいなんだ
から。昼間から銭湯へ

行くものもいましたよ。喫茶へも行きました。けど、
夜は勉強したなあ。東寮、西寮、.....私がいた部屋か
ら外を見るとまだ明かりがついている部屋があるん
です。そうすると、もう少しがんばろうかと。また、こ
れは全国でも稀にみる施設だと思いますが、清和寮と
いう寮生のための癒しの場所があったんです。一戸建
てで純日本風住宅、電蓄が置いてある部屋があったり、
庭は木花でいっぱいでした。ここの寮母さんが、とて
も献身的な方で、自分のことよりも学生のことをいつ
も優先してくださった
んです。」

寮母さんは、北条み
ちのさん。藤野さんは、
清和寮の記憶をつづ
った『思い出の清和寮』
で寮母さんの思い出に
ついて語っています。



人文学部2年佐藤翔悟さん(副寮長)

献身的な女性、学生を思うあまり、自分自身がピンチ
になる話などを披露していらっしゃいました。寮母さ
んを20年続け、ガンにむしばまれてしまう。一年後、
この世を去ってしまうのですが、寮生たちは身よりの
ない寮母さんに、お墓をつくりました。

自由の中にある主体的な動きに、現在の大学のあり
方を考えさせられてしまいました。

自治の本質は、 共同生活・集団生活にあり

「旧制高校を復活させようという人の意見をよくよ
く聞いてみると、寮生活を復活させようということら
しいですね。旧制高校時代は、多感な頃でしょ。そん
な頃に、共同生活をしながら議論しあうわけですよ。
これは、貴重な体験です。」

「ボーイスカウト、ガールスカウトなどの教育の考
え方とも似ていますよね。生活そのものが教育なんだ
と。教育の普遍性かもしれません。(編集部)」

「そうですね。まあ、奇人・変人もいましたが、み
んな不屈さを持っていましたよ。そして、何より世の
中には、『いろんな人がいるんだなあ』ということ
を体で学んでしまう。ほんと、いろんな人がいるのが
社会ですから。」

現副寮長の佐藤翔悟さん、そして寮祭実行委員長の
神田大嗣さん。大先輩の話に目を輝かせておりました。
特に、神田さんは追い求めていた『ルーツ』を得て、
さらに興味が沸き上がってくるようでした。

(編集部)